

ボートレースの話題が集まるメディア向け情報誌

Propel

プロペル

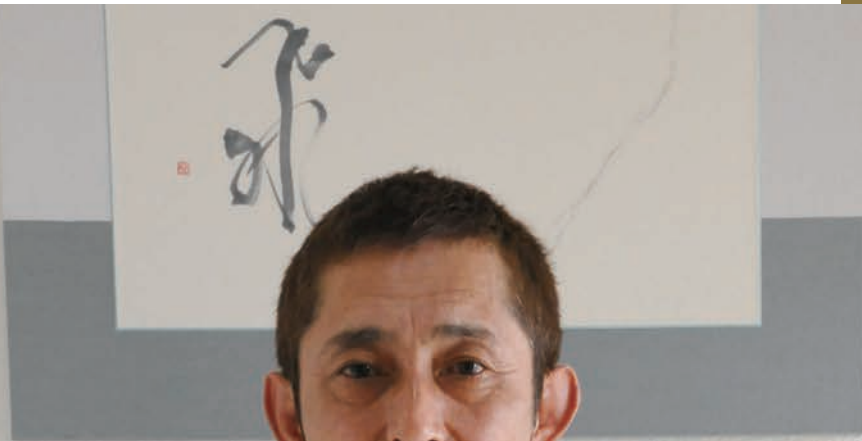
[今村豊選手インタビュー]
レジェンドが語る、公営競技の責任

[今村豊の航跡]

- 記録
- [ボートレーサー 今村豊]とは
- 年表

Vol.33

ボートレースPR情報誌



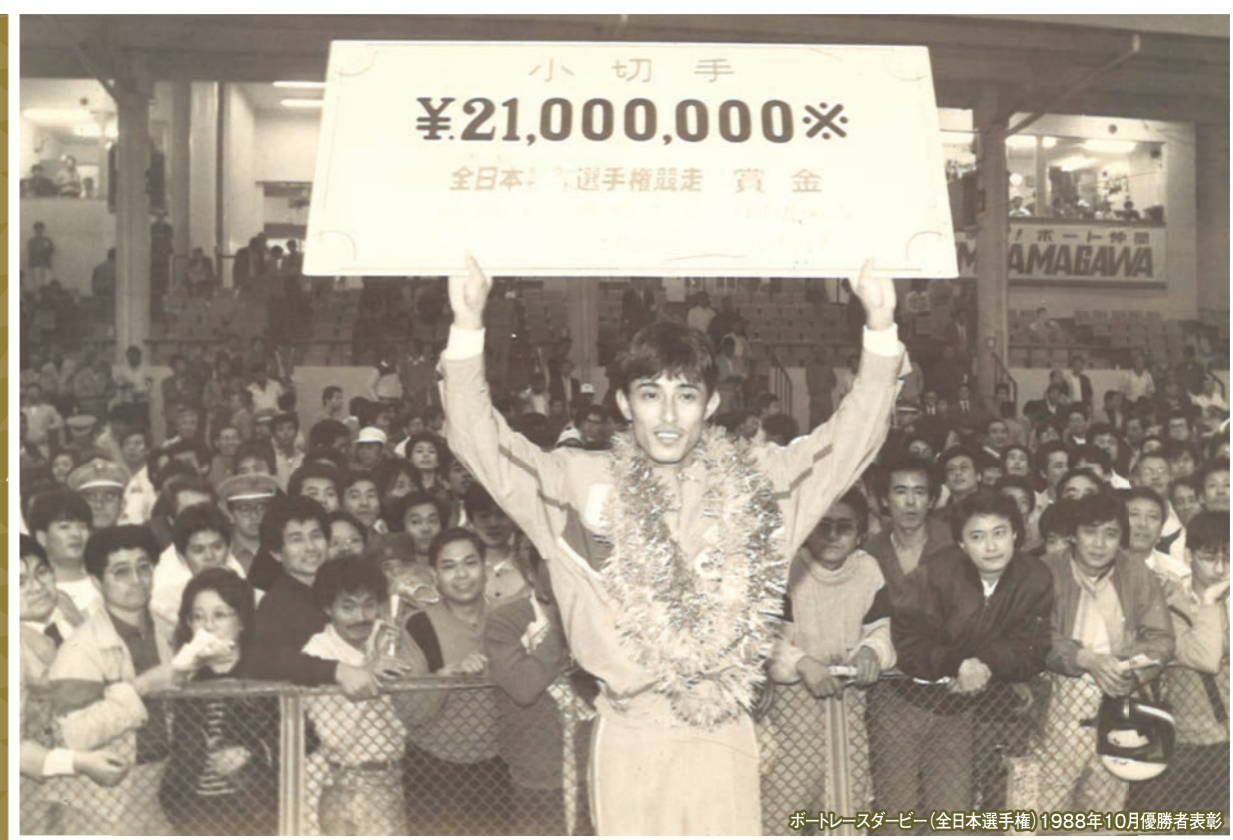
BOATRACER'S HISTORY

ボートレースの伝説を作るレーサー



勝ち続けることはできない
しかし、ファンを納得させねばならない
レジェンドが語る、公営競技の責任

サッカーの三浦知良氏、スキージャンプの葛西紀明氏というように、レジェンドと呼ばれる選手が、各スポーツ界に存在する。かつて輝かしい記録を打ち立て、年齢を重ねてからも、若い世代と競い合っている現役選手の呼称であるなら、今村豊は紛れもなくボートレース界のレジェンドである。今村がこれまでの残してきた足跡は、色あせることのない「伝説」であり、今もなお第一線で走り続ける。伝説は新たな頁を刻む。



ボートレースダービー(全日本選手権)1988年10月優勝者表彰

平均年収はサラリーマンの10倍—父の夢を継いでボートレーサーに

今村がボートレーサーを意識したのは「小学生の時」だったが、実際に職業として捉えたのは高校に入ってからだと言う。父からの勧めだった。

「僕の父親がボートレーサーを志望していたのですが、下関まで願書を出しに行ったら、入口の守衛さんに、今の仕事を続けたほうがいいと説得されたみたいで、結局そのまま家に帰ったそうです。そういう時代だったんでしょうね。ただ、父はそのことを後悔していたから、僕に『ボートレーサーになれ』と、言ったんだと思います」

父親が息子に、自分の夢を託したかったのは自然と想像がつく。だから今村は、小学生の頃に漠然と「ボートレーサー」を意識したのだが、それは決して強い思いではなく、職業という認識がなかったただけだと振り返る。

「中学を卒業する頃は、数学が好きだったから銀行員になりたいと思っていました。ですが、住んでいた小野田市には商業高校がなくて、結局、工業高校に進学しました。それで、高校三年生の就職活動をしている時に、ボートレーサーが浮かびました」その理由は、給料だった。当時は、名の知れた一流企業でも地元の企業でも、初任給はどれもそんなに差がなかったそう。会社の求人票をみても、どの会社も初任給は8万円弱。それに、今村は矛盾を感じていた。

一流企業に就職したとしても、地元の企業に就職したとしても、給料が同じなのは何故なのだろう?そんな思いを抱いていた今村は、父親に「ボートレーサーの募集パンフレットを取り寄せてくれ」と頼んだ。「もちろん父親は、すぐに用意してくれました。資料に目を通すとボートレーサーの平均年収が900万円という記載が

あったのがすぐに目に飛び込んできました。サラリーマンの10倍ですよ!その数字を見て、即決でしたね。すぐにボートレーサーになると決意しました。身長や体重の制限も、視力も、試験を受ける条件は、全部クリアしていましたから、迷いがなかったです」

ボートレーサーという職業は、他のスポーツ競技と違い、未経験からプロアスリートになることができるため「自分にもできるかも?」と夢を抱くことができる。例えば、一人の高校生がプロ野球選手になりたいと夢見ても、それまでの経験から、自分の将来を予測することは容易いが、ボートレースは、ほとんどの人が経験を積んだことのない競技だからこそ、自分の才能の有無がわからない。ボートレーサーとしての能力が備わっているという感覚や、レーサーとしての夢や目標を思い描きやすいところが、若者にその道を照らす大きな要因なのだろう。

「たくさん稼ごうなんて思わなかった。学校の体力検査でも、柔軟テスト以外の点数は良かったから、何となく自信はあったけれども、ボートのことは何も知識がなかった。ただ漠然と、この平均年収を稼げるのならばボートレーサーになりたい、と思った。その時は、何故ボートレーサーの収入が良いのか、全く考えませんでした。危険な競技だなんてことも思ってもいません。父親だって同じでしたよ。水の上だから安全だろう?と、父親は言っていましたしね(笑)。やってみてすぐに危険なのは分かりましたけど」

何の予備知識もないまま、高校を卒業した今村は、ボートレーサーの門をくぐることになる。



転覆王と呼ばれた 訓練生時代

まず、ボートレーサーになるためには、研修所（当時）で1年間の訓練を受けなければならない。そして、その訓練を受けるためには試験に合格しなければならない。今村と同じようにボートレーサーを夢見た者は総勢885名。内、35名の男女が入所試験に合格した。倍率25.3倍の試験に一発合格した今村は、山梨県の本栖湖にあった「本栖研修所」に入所した。

現在では、場所と名称を変えて、気候が比較的穏やかな福岡県柳川市に「ボートレーサー養成所」としてプロのボートレーサーを養成している。しかし、当時、本栖湖にあった研修所は、富士山の麓に水面を有し、真冬の寒波や強風が吹き荒れる水面など、厳しい自然環境の中で、プロボートレーサーとしての心構えや技術を身につけていく場所であった。



「訓練生の時代は、転覆ばかりしていました。転覆回数はダントツでした」

と、今村は振り返る。事実、周囲からは「本栖の転覆王」と呼ばれていたのだが、今となっては、それも伝説のひとつであり、今村の勲章となっている。

最初の転覆は、始動発着という課題だったそうだ。エンジンを始動させて、ピット

からボートを低速のまま出艇させ、またピットに戻ってくるという練習だ。「そこで転覆する人なんて、聞いたことありませんでした。今でも一人もいないんじゃないですかね。他の艇と交差しないように、右回りでピットに帰ってくるんですが、教官から『怖くなかったら握っていいぞ』と言われたので、僕はアクセルレバーを握って走ったら、転覆したんです。教官が握っていいぞと言ったのは、直線のことだったみたいですが、僕はそうは思わずに、旋回する時に握ってしまったんです。もの見事にこけましたね。今でも記憶に残っているけど、3~4回転しましたよ」

ボートレースの艇には、アクセルレバーが左側に取り付けられている。レーサーはそのレバーを左手で握って、スピード調整をするのだが、握り込めばスピードが出る。ボートに乗り始めたばかりの訓練生にしてみれば、直線で最高時速80キロとなるボートで疾走するだけでも恐怖心が湧くものだが、今村訓練生は旋回時に握った。それも右回りで。ボートレースは左回りの競技である。ボート自体が、右に旋回するように設計されていない。伝えた教官にしてみれば、まさか右回りの旋回で握る訓練生がいるとは、予想だにできなかっただろう。プロのレーサーでも普段と逆の右回りで



Yutaka Imamura BOATRACER'S HISTORY

旋回することは難しいのであるから、当然まだまだ駆け出しの養成員ではもちろん転覆する。今村は本当に何も知らなかったのだ。「結局、下手くそだから転覆するんですね。ターンマークを外して旋回するなど教えられて、それを意識するあまり、ターンマークに近付き過ぎて激突してしまう。その繰り返しでした」

鮮烈デビューの秘密は 誰にも負けない練習量

本栖研修所で転覆ばかりしていた今村だったが、プロデビューした途端に周囲の人たちの度肝を抜く活躍をする。その記録は別欄に掲載したとおりだが、当時を知る者が思い返した今でも、身震いするほど衝撃的な新人レーサーの登場だった。

「とにかくデビュー当時の目標はA級に昇格することでした。その延長で記念レースに出たいと思っていました。ダービー（全日本選手権）なんて夢でしたね」

記念レースは、現在のGI周年記念競走。各ボートレース場で年に1回開催され、強豪レーサーだけが参加できる競走のことで、全日本選手権は、現在SGボートレースダービーと呼ばれ、歴史のあるボートレース業界で最高峰のレースだ。

大きな大会だけでなく、一般競走と呼ばれる通常の



レースでも、今村の姿勢は変わらなかった。「練習することが大好きでした。とにかくボートに乗っていました。レース初日の前日（前検日）に行なうスタート練習も通常は5本なのですが、僕は10本していました。もう5本させていただけませんか？って、お願いをしに行って。それで許可をもらって、僕だけ10本させてもらいました」

ボートレースは、フライングスタートという特殊なスタート方法を採用している。その特殊なスタートに慣れるための練習を、前検日に他のレーサーの倍こなしていたのだ。当時、今村は「ドリーム男」と呼ばれていたが、その秘密はここにあったのだ。その大会に出場するメンバーの中で、選ばれた主力レーサーだけで競われる、「ドリーム戦」と呼ばれるレースが組まれることがある。その「ドリーム戦」に今村はめっぽう強かったのだ。対戦相手の倍のスタート練習をこなした今村は、他のレーサーよりも自信を持ってスタートを決めることが出来たのである。



事実、今村はデビュー戦1走目で1着を取り、早々にトップレーサーの証である「A級」に昇級。10ヵ月後にGI初出場、1年1ヵ月後にはSG初出場、と新人らしからぬスピードでビッグレースに出場を果たす。

1年3ヵ月後には、ボートレース丸亀のGI周年記念競走で優勝してGI最短優勝記録をマークし、僅か3年1ヶ月で、SG初優勝を果たし、驚くべく速さで

ボートレース界のトップまで昇り詰めた。しかし、記録を塗り替えるような成績を残しても、今村は冷静だった。いや、自分自身の鮮烈さを理解していなかっただけなのかもしれない。

「最初はものまねですよ。ほかの人のレースを見て、これは取り入れてみよう。やってみよう。で、実際にやってみて、自分のものにする。いろいろ工夫をして、乗り方やいろんなことを考えてやってきました」

モンキーターンと呼ばれる旋回方法がボートレース界を席卷した時、今村はそれをすぐには取り入れなかったと言われている。しかし、本人に真相を聞いてみると「実は最初にやったのは僕ですよ。いえ、飯田加一さん（引退）がされているのを見て、真似したんです。でも、僕がモンキーをしたら、危険だという理由で止められたんです。それでやらなくなっただけ」

革新的な技術に目をつけて、まず取り入れようとするのが今村

だった。ただ取り入れるだけではなく、自分に合ったスタイルにアレンジをする。

「昔の人は人間が空を飛べるなんて思いもしなかったでしょ。月に行けるなんて言ったら、嗤（わら）われますよ。でも、今はそれが現実となった。ボートレースでも、無理はないんじゃないかってチャレンジしていた。今は嗤ってしまうようなことでも、実は出来るかもしれない。立ち上がって旋回するモンキーターンなんて、昔だったらそういうことですよ」

工夫と探究心、そして誰にも負けない練習量。レジェンドが誕生した理由がそこにある。

舟券を買ってくれたファンが 納得してくれるレースを

高額な賞金に惹かれてレーサーになった今村の夢はデビュー直後に現実となって形に現れた。デビュー節に手にした賞金「80万円」だ。

「サラリーマンになっていたら、月収8万円だったわけですから、それが6日間のレースを走っただけで、10倍ですよ、10倍！ドキドキして電車に乗って、賞金を入れた鞆から目が離せなかったのを覚えています」当時、賞金は現金支給だったのだ。しかし、初々しい感覚もデビューからしばらくし、目覚しい活躍をするようになる頃には、さらに高額な賞金を手にすることができるようになり、その感覚は薄れていったようである。ただ、その賞金を手にすることができるのは、自分に舟券を託してくれるファンの方々がいるからだという思いは、デビュー当時から変わらず持っているという。

「舟券が外れても、納得してもらえないレースはしないといけない。全部のレースで1等が取れるわけではないし、負けることのほうが多いのだけれども、それでも、どんな時でも、自分を信じて応援してくれるファンの方たちがいるということは、いつも意識しています。ファンの方々のためにも、気持ちを込めて走ることが、ボートレーサーにとっていちばん大切なことだと考えています」

ボートレースが、公営競技であるという意識が、責任感を根付かせる。今村の気持ちは舟券を託してくれたファンに向く。その気持ちを胸に、新たな伝説が今も書き加えられているのである。



今村豊の航跡

今村豊の記録



デビュー戦で1着を取り、2期目に早くもA級入り。1年3ヵ月目にはボートレース丸亀のGI周年記念競走で優勝してGI最短優勝記録をマークする。GI初出場が10ヵ月目、SG初出場は1年1ヵ月、SG初優出は1年7ヵ月。このデビュー記録は今も破られていない。

1984年4月、ボートレース浜名湖で開催されたボートレースオールスター(笹川賞)で、22歳4ヵ月で最年少SG優勝。この記録は服部幸男選手(静岡)が、1992年10月ボートレースダービーで21歳9ヵ月でSG優勝したことで破られた。しかし、3年1ヵ月のデビュー最短SG優勝記録は破られていない。

1991年~1993年にかけて年間勝率3年連続1位。この記録は峰竜太選手(佐賀)も2017年に3年連続勝率1位になり、並んだ。1990年代の後半に発症したメニエール病の影響を受けながらも、プレミアムGIマスターズチャンピオン(名人戦)3回優勝の記録を残している。

Yutaka Imamura

一方、「天才・今村」の下には、柳瀬興志選手(山口)、白井英治選手(山口)が、今村塾の扉を叩き弟子となった。白井は「親父がいつも今村さんのことばかり話していた」

と、今村の先進的なターンは多くのボートレースファンも魅了し、ボートレーサーを目指す者の手本となっていた。

また、今村は歌手の鳥羽一郎さんとも親交があり、鳥羽さんからは輪島塗りのヘルメットをプレゼントされている。スポーツ界との交流も深く、福岡ソフトバンクホークスの始球式を務めたこともある。



登録第3661号
柳瀬興志選手(山口)



登録第3897号
白井英治選手(山口)

今村は、マスコミにも真摯な対応をすることで知られる。新聞のコラム「病、それから」ではメニエール病との戦いについて取材を受け、同じような病に苦しむ人たちに大きな勇気を与えた。



鳥羽一郎さんからプレゼントされたヘルメット

ボートレーサー今村豊 のあゆみ

※優勝記録は主なSG・GIレース

年	月	内容	備考
1961年	6月22日	山口県で生まれる	
1964年		東海道新幹線営業開始 東京オリンピック開催	[国内]
1970年		大阪万国博覧会開催	
1972年		札幌冬季オリンピック開催	
1980年	3月	本栖研修所へ選手養成のために入所	
1981年	3月	48期生として選手登録	
	5月	徳山・一般競走初出走 徳山・一般競走初優出	
1982年	1月	デビュー1期目に 勝率6.20をマークしてA級入り	1982年 東北新幹線、上越新幹線開通
	2月	児島・中国地区選手権 GI初出場	
	4月	蒲郡・一般競走初優勝	
	5月	住之江・ボートレースオールスター SG初出場	
	7月	丸亀・周年GI初優勝	
	10月	桐生・ボートレースダービー SG初優出	
1984年	4月	浜名湖・ボートレースオールスター SG初優勝(22歳4ヵ月)	1985年 青函海底トンネル完成
1986年	6月	津・周年GI完全優勝	
	12月	住之江・第1回グランプリSG出場	
1987年	10月	平和島・ボートレースダービー SG優勝	
1988年	10月	多摩川・ボートレースダービー SG優勝 (同一タイトル連続優勝)	1988年 瀬戸大橋開通 1989年 昭和から平成に
1990年	1月	1990年前期適用勝率1位	
	10月	戸田・ボートレースダービー SG優勝	
1992年	8月	浜名湖・ボートレースメモリアル SG優勝	
	12月	住之江・グランプリ グランプリ7年連続出場	1993年 サッカーJリーグ開幕 1995年 阪神・淡路大震災 1998年 長野冬季オリンピック開催
2002年	2月	下関・中国地区選手権 で2度目のGI完全優勝	2002年 FIFAワールドカップ-日韓開催
2004年	3月	福岡・ボートレースクラシック SG優勝	
2007年	1月	2000勝達成	
2010年	8月	蒲郡・ボートレースメモリアル SG優勝	
2011年	4月	常滑・マスターズチャンピオン GI優勝	2011年 東日本大震災 FIFA女子ワールドカップ なでしこジャパンが優勝
2014年	3月	2500勝達成	2013年 富士山が世界遺産登録
2015年	4月	児島・マスターズチャンピオン で3度目のGI完全優勝	2016年 北海道新幹線が開通
2017年	4月	津・マスターズチャンピオン で同一タイトル3度目のGI優勝	
	7月	全国24レース場制覇	

「ボートレーサー 今村豊」とは

今村がデビューしたのは1981年。当然当時は、今のようなCS放送(ボートレース専門チャンネル)もインターネット動画もない時代で、レースを見る方法はレース場でリアルタイムで観戦するしかなかった。今村が全速ターンで衝撃的なデビューをしても、リアルタイムで見ることができるファンは限られ、その活躍が知れ渡るのには時間がかかった。

しかし、今村と走るレーサーたちは敏感に反応した。最初の頃は「ターンマークを外しているから大したことはない」と甘く見ていたレーサーたちが、スピードを付けて旋回する今村に置き去りにされてしまうと、第一線で活躍するレーサーたちも「全速ターンの時代が来る」と予測し「打倒・今村」を合言葉に対応を急いだ。



今村 豊 プロフィール

1961年6月22日、山口県で生まれる。1981年3月21日、48期生として選手登録。デビュー戦で初勝利、デビュー1期目にA級入り、デビュー10ヵ月でGI初出場、デビュー1年1ヵ月でSG初出場するなど、当時の革命的なターンである全速ターンでボート界の新旧交代を突きつけた。1984年4月ボートレースオールスターで、デビュー3年1ヵ月でSG初優勝を飾り「天才・今村」と呼ばれた。1987年平和島、1988年多摩川のボートレースダービーでSG連続優勝を飾る。30代半ばにメニエール病を発症、SGの連続出場記録などが

途切れるが、デビュー1期目からの72期連続でA級として活躍。北原友次さん(引退)の持つ77期連続A級の記録更新に期待が集まる。2014年、2016年、2017年と完全優勝を含めマスターズチャンピオン優勝3回、2017年4月にボートレース芦屋で優勝、この優勝で全国24場あるボートレース場全てで優勝し、「24レース場優勝達成選手表彰」を受賞。長年に渡って第一線で活躍。年齢を重ねるごとに経験を積み重ね、未だ強さに衰えを感じさせない。

若い頃は6コースからの全速ターンで活躍、モンキーターンへの切り替えは遅かったが、レーススタイルは時代と共に進化している。得意なレース場、得意な水面などは一切待たず、つねに全力投球するスタイルを崩していない。

通算1着回数は2756勝、優勝回数は138回(SG優勝7回、GI優勝48回)、通算勝率は7.83、生涯獲得賞金は28億6531万円。※2018年3月21日時点

島、1988年多摩川のボートレースダービーでSG連続優勝を飾る。30代半ばにメニエール病を発症、SGの連続出場記録などが



山口県下関市に所在。2017年4月から「海響ドリームナイター」と称してナイターレースを開催。JR山陽本線長府駅から徒歩3分。源平の合戦で有名な「壇ノ浦」や佐々木小次郎と宮本武蔵の戦いで有名な「巖流島」など、観光名所は数多く、レース場付近の長府の町は、城下町として栄え、明治維新に関連した神社などもあるなど風光明媚な場所。唐戸市場など有名でグルメも豊富な観光地です。

ボートレース下関 検索

【ボートレース下関：〒752-8511 山口県下関市長府松小田東町 1-1】

■JR線ご利用の場合

最寄駅：JR山陽本線「長府駅」より徒歩3分

【遠方からお越しの場合】

JR山陽新幹線で「新下関駅」または「厚狭駅」にてJR山陽本線に乗り換え、「長府駅」下車

ボートレース下関マスコットキャラクター
シーボー&シーモ



日本財団の紹介



日本財団に関する情報はこちらから ▶ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>
日本財団会長 笹川陽平ブログ ▶ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。
年の三分の一を海外活動に充て、
海外情報や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。

日本財団会長の
笹川陽平ブログ



取材の申し込み・お問い合わせはこちらまで



広報部 広報宣伝課

〒108-0073

東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館

TEL 03-3451-0501

FAX 03-3451-0429

BOAT RACE 振興会ウェブサイト

▶ <http://www.boatrace-pr.jp/>

BOAT RACE オフィシャル web

▶ <http://www.boatrace.jp/>

BOAT RACE
振興会ウェブサイト



「ISO/IEC27001:2005」を
認証取得

BOAT RACE 振興会は、2010年7月25日付で、
全部門を対象とした情報セキュリティマネジメント
システム (ISMS) の国際認証基準
「ISO/IEC27001:2005」を認証取得しました。

編 | 集 | 後 | 記 |

先日、誕生日を迎えました。誕生日になると、毎年必ず「おめでとう」ってお祝いしてくれる人がいたり、ちょっと贅沢しておいしいものが食べられたり…。なんだかうきうきしちゃいますよね。これからもそんな素敵な誕生日を重ねて、いい大人になりたいものです。今回の「PROpel」では、レジェンドと謳われる今村豊選手の特集でした。ボートレース界に数多くの歴史を刻んできた今村選手の言葉の一つ一つには、心にずっと響くような重みがあります。今村選手はこれまでどんな誕生日を過ごしてきたのか、とっても気になります。 広報部 広報宣伝課 松岡彩映

